



2026 AUTOBACS SUPER GT Round 6 SUGO GT 300km RACE

SEPTEMBER. 19 - 20 Qualify : 5th / Race : 21st

予選まで好走みせるも決勝は展開に恵まれず



8月に行われた第5戦では好走をみせ、4位に食い込みチャンピオン争いでも1ポイント差の2位につけた D'station Racing。この勢いを後半戦に繋げるべく、チームは第6戦の舞台であるスポーツランド SUGO に乗り込んだ。

このレースウィークは事前に荒天の天気予報も出ていたが、迎えた走行初日となる9月19日(土)のスポーツランド SUGO は曇り空。午前10時30分からの公式練習は気温22度/路面温度23度というドライコンディションで始まった。D'station Vantage GT3 は藤井誠暢から走行を開始。6周を走りチャーリー・ファグに交代した。途中、少しずつ霧雨が降りはじめ、GT500 車両のアクシデントが発生した公式練習だったが、ファグは15周を走行。藤井が記録した1分18秒347というベストタイムで7番手につけた。このSUGO はタイトなレイアウトもあり、公式予選でも前のグリッドを獲得しておきたい。その点でも、好調な土曜のすべり出しとなった。

午後2時30分から始まった公式予選は、曇り空が続き気温23度/路面温度28度というドライコンディションで始まった。D'station Vantage GT3 は、まずは予選Q2進出を目指し、ファグがQ1のB組に出走。アタックを展開し、1分17秒249までタイムを伸ばし2番手へ。きっちりと

Q2進出を果たした。その勢いそのまま、Q2の藤井は1分17秒255というベストタイムを記録。藤井にとっては感触としては不安があるものだったが、ライバルたちもタイムを伸ばせず5番手に。D'station Vantage GT3 は決勝レースに向けて好位置を獲得することになった。

予選から一夜明け、迎えた9月20日(日)の決勝日は朝から天気予報どおり雨模様となった。ただ、午前のうちに雨は小康状態となり、決勝レース前のウォームアップ走行では路面が急速に乾いていくことになった。午後1時30分から始まった決勝レースではレコードライン上は乾いており、全車がスリックタイヤを履いて臨み、気温23度/路面温度25度というコンディションのもと、セーフティカー先導でレースが始まった。

D'station Vantage GT3 は藤井がスタートドライバーを担当。レース序盤から、前を走る4番手の#52 GR Supra を先頭とした集団のなかでバトルを展開していった。この間にトップ3が逃げてしまったことから早く#52 GR Supra をかわしたいところだったが、D'station Vantage GT3 には一気に順位を上げるほどの高いポテンシャルがなく、巧みなブロックもあり思うように前に出られずにいた。その間に、最終コーナーでGT500車両にヒットされてしまうことがあったが、大きな損傷はな

くレースを進めていき、ピットストップのタイミングをうかがった。

ただそんな中、最終コーナーで2台がクラッシュするアクシデントが起きた。これでレースは26周目からセーフティカーランとなったが、D'station Vantage GT3 にとっては厳しい展開となった。今回も D'station Vantage GT3 はサクセス給油リストラクターが課せられていたが、隊列が短くなった分、ピットストップ時の追加タイムが順位変動に大きく影響することになってしまった。

31周を終え藤井はピットインしファグに交代したが、順位は大きく下がり21番手。その後も#62 GT-R や#52 GR Supra などとバトルを展開しながらレースを進めたものの、大きくジャンプアップできるポテンシャルは今回はなく、ファグにとっても苦しいレースを強いられることに。D'station Vantage GT3 は最後は21位でフィニッシュし、ポイントを獲得することはできなかった。

このレースで2位でフィニッシュした#56 GT-R をのぞけばランキング上位陣は大きなポイントを重ねなかったのは不幸中の幸いだった。シリーズはまだ3戦が残されている。まだまだ挽回のチャンスはあるはずだ。

D'station Racing は終盤戦に向け、ふたたび好結果を目指していく。



COMMENTS :



Team Owner : Satoshi HOSHINO

第5戦鈴鹿では4位と良い戦いをみせてくれましたし、今回も公式予選までは本当に良い流れで、5番手につけていたので決勝レースも期待していました。スタートから藤井選手が上位集団のなかで素晴らしい走りを見せてくれたので、大量ポイントも十分可能だと思っていたのですが、セーフティカー導入で流れが変わってしまいましたね。こ

のレースの本当に難しいところだと思います。最後までチャーリー選手が頑張ってくれましたが、ポイントに届かず悔しい結果となりました。ただ、シリーズランキングでもまだ上位につけているので、チャンピオンはまったく諦めていません。次のオートポリス、そして第3戦、第8戦が行われるもてぎと、全力を尽くしていきたいです。



Director : Kazuhiro SASAKI

難しいレースになりましたね。土曜までは藤井選手もファグ選手も本当に素晴らしい走りをしてくれて、苦しいサクセスウエイトの中でもベストグリッドとも言える5番手を獲得してくれました。ここまではチームにとっても狙いどおりでしたが、レースもベストな戦略ができたものの、セーフティカーで大きく狂ってしまったと思います。残念なが

らポイントは獲得できなかったとはいえ、ふたりのドライバー、エンジニア、メカニックも素晴らしい仕事をしてくれたと思いますので、その点は誇りに思っています。まだまだシーズンもあと3戦ありますし、巻き返すチャンスは全然あると思っています。オートポリスでは今回のリベンジをしっかり決めたいですね。



Supervisor : Tetsuya TANAKA

決勝レースは思ったよりも苦しい展開となってしまいました。想定外の結果でしたね。少なくともポイントは獲得できるかとは思っていましたが、気持ちを切り替えて次のレースに向けて頑張っていきたいです。今年、いつもと違うのは次戦のオートポリスはもう終盤戦のレースですが、いつもならこのスポーツランド SUGO のレースか

ら終盤なんですよ。まだ3戦あります。ポイント差は開きましたが、正直言ってまだまだ何が起きるか分らないと思います。自分たちのベストを今後も尽くしていけば、可能性は十分あるはず。もてぎも2戦連続ですからね。1戦良ければ次も良い結果になると思います。そうなるように、チームとして気を引き締めていきたいです。



Driver : Tomonobu FUJII

公式予選ではサクセスウエイトを考えるととても良い順位につけることができました。ただ、タイヤも柔らかめだったので、レースが厳しいのは分かっていたのですが、ピックアップ等もあり、予想どおり少し苦しいレースになってしまいました。ピットインしたタイミング等も良かったのですが、セーフティカーが入った影響で、ピットアウト後に

大きく順位が下がることになってしまいました。レース後半のチャーリー選手のスティントも、違うタイヤを履きましたがベースは苦しかったですね。僕たちとしてはベストを尽くすことができましたが、苦しいレースになってしまいました。タイトル争いは点差が離れてしまいました。残り3戦あるので、また頑張っていきたいです。



Driver : Charlie Fagg

僕たちにとっては辛いレースになってしまったね。サクセスウエイトの状況を考えて予選の結果にはすごく満足していて、だからこそ決勝レースでは良い結果を残してポイントが残せると思っていたんだ。セーフティカー導入が僕たちにとっては本当に不運になってしまったよ。全車が接近して、僕たちは給油リストラクターで時間がかかってし

まったため不利な状況になってしまった。ピットストップでも小さなトラブルがあり、余計に時間がかかってしまったんだ。今日は挽回するだけのベースもなかったし、今年いちばんの苦戦になってしまったと思う。ただまだ3戦残っているし、次戦のオートポリスは得意コースではないけど、もっと良い週末になるようにしたいね。

